

平成29年度 上戸祭小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

基本目標：心身ともに健康で日本及び国際社会に貢献できる人間の基礎的な資質を養う。

＝ 心身ともに健康でたくましく、創造力と実践力に満ちた、心豊かな児童の育成 ＝

自分や他人を大切にする子ども

進んで学ぶ子ども

たくましく生きる子ども

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

＝ 合言葉：「学ぼう 遊ぼう 友だちと」 ＝

人間尊重の精神を基盤としたあらゆる教育活動を通して、学校教育目標に掲げた児童の育成を目指す。そして、児童が、社会の中で自分の能力を発揮し自己実現できるようになるために、「できなかったことができる、分からなかったことが分かる」ように、児童と教師と学校の power up を図る。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※地域学校園内で共通する方針は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- （1）児童の power up のために、個に応じた指導を充実させるとともに、保護者と連携して家庭学習の習慣化を図るとともに、社会性の育成を推進する。
- （2）児童の power up を支える教師の power up のために、校内研修を計画的・継続的に実施し、授業力の向上を図る。
- （3）教師の power up を支える学校の power up のために、地域や保護者への情報提供と地域の教育力を生かした取組の推進を図る。

〔星が丘地域学校園教育ビジョン〕

「未来を切り拓く豊かな社会性の育成」

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※地域学校園内で共通する目標は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校運営】

- ・ 未来を見つめ、夢と希望に満ちた学校づくり

【学習指導】

- ・ 認め合い、学び合う学級づくり
- ・ 意欲的に学び続ける児童の育成

【児童生徒指導】

- あいさつと言葉遣いを重点とした、望ましい生活習慣と正しい判断力の育成
- ・ 互いのよさを認め合い、他人を思いやることのできる児童の育成

【健康（保健安全・食育）・体力】

- ・ 友だちと豊かに関わりながら進んで運動に取り組み、健康・体力の向上に励む児童の育成
- ・ 児童の健康な生活習慣の定着

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。） 評価の網掛け：本年度重点評価：マニフェスト

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組に関わる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 市共通アンケートの「私は、今の学校が好きです」 ⇒児童の肯定的回答 98%以上 市共通アンケートの「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」 ⇒保護者の肯定的回答 98%以上	・児童主体の魅力ある活動を推進しながら、一人一人のよさを認めることで「未来を見つめ夢と希望に満ちた学校づくり」と「心身ともに健康でたくましく、創造力と実践力に満ちた心豊かな児童の育成」に努めます。 (1)児童会活動や縦割り班活動、各委員会が企画・運営する集会・交流活動を充実させ、ロング昼休みを有効活用するなど、児童主体の魅力ある活動を推進します。 (2)日常的に児童の見取りを細かく行い、児童一人一人の話をよく聞き、声を掛け、よいところを認め、伸ばす指導に努めるとともに、職員間で学習情報システムを利用した情報共有を含め、より報交換を密にし、職員全体で児童を賞賛できる場を設定します。昨年度から始めたかみとオリンピックを通して、学級内で協力する機運を醸成し、互いの学級を認め合う機会として、さらに工夫改善し、学校生活の活性化につなげていきます。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答 93.7% 保護者の肯定的回答 98.4% ・ロング昼休みや朝会時を活用し、児童会や各委員会が企画・運営する集会・異学年交流活動を行ってきた。児童の創意工夫を生かし、児童主体の活動を推進してきた。 ・かみとオリンピック等を通して、学級経営の充実に努めるとともに、「ともだち100人大作戦」として、縦割り班活動の活性化を図り、児童が楽しいと感じる雰囲気づくりに努めた。 ・教育相談や日々の児童の見取りを細かく行い、職員会議等で児童に関する情報交換を行った。児童理解に努め、全職員による指導を行った。 ・学習情報システム等を利用し、教師間で情報を共有するとともに、良いところを認め伸ばす指導に努めた。 【次年度の方針】 ・児童の意欲的な取り組みを認め賞賛しながら、児童会、各委員会を中心に児童主体の魅力ある活動を推進していく。 ・かみとオリンピックや縦割り班活動を、さらに工夫改善し、児童一人一人が楽しいと思える学校づくりにつなげていく。 ・学習情報システム等を利用しての情報共有をさらに充実させ、児童のよさを見取り、認め、伸ばす積極的な児童指導を心がける。
			B	

A2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 市共通アンケートの「先生方は、大切なことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 97%以上 市共通アンケートの「教職員は協力し、教えるべきことを熱心に指導している」 ⇒保護者の肯定的回答 95%以上	・「学ぼう 遊ぼう 友達と」を合言葉として、児童が社会の中で自分の能力を発揮して、自己実現を目指すことができる教育を進めます。 (1)授業の初めにねらいを明確に提示し、学び合い活動を効果的に取り入れて分かる授業を行うことにより、個に応じた指導の充実を図ります。 (2)教職員は、明るいあいさつを率先垂範し、人権感覚を磨き、丁寧な言葉遣いや誠実な対応を心掛けます。	【達成状況】 児童の肯定的回答 98.3% 保護者の肯定的回答 96.0% B ・授業の初めに本時のねらいを提示し、ねらいを達成するために効果的な学び合いを継続してきた結果、自分の学びや成長を振り返って、「わかった」「できた」という実感をもつ児童が増えてきた。 B ・保護者への対応を組織的に整え、迅速かつ丁寧に対応してきた。 ・「あいさつの響く学校」を実践するべく、教員によるあいさつ運動を実施する等、明るいあいさつの率先垂範を心掛けた。 【次年度の方針】 ・来年度も、より効果的な学び合いの姿を模索し、積極的に取り入れていくと同時に、個に応じた指導の充実を図っていく。 ・今後も児童・保護者・地域の方々への明るいあいさつの率先垂範及び丁寧な対応を心掛けていく。
A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 市共通アンケートの「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒全体の肯定的回答 94%以上 ※全体の肯定的回答とは、児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答の平均を指す。	・あいさつと言葉づかいを重点とした、望ましい生活習慣と正しい判断力の育成に努めます。 (1)「かみとよい子のやくそく」と「職員が共通理解しておきたい指導のめやす」を確認したり、児童の実態に応じて指導すべきポイントを絞り込み毎月の生活目標を設定し学期ごとに振り返りをさせたりして、集団生活の中できまりを守っていこうとする態度の育成を図ります。 (2)地域や地域学校園内の中学校等と連携して、児童が中心となってあいさつ運動を展開するとともに、登下校時や上戸タイム、朝の会や帰りの会など、さまざまな場で児童の規範意識を高める指導をしていきます。	【達成状況】 全体の肯定的回答 94.0% B { 児童の肯定的回答 92.0% 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答 97.3% 地域住民の肯定的回答 75.0% B ・生活のきまりについて、休み時間のルールなどをボードに掲示することで、全児童に意識づけできるようにした。 ・宮っ子チャレンジの際のあいさつ運動などで地域学校園内の中学校と連携し、マナーアップ委員会の「あいさつ金メダル」を重点としてあいさつ運動を推進していくことができた。 【次年度の方針】 ・きまりやマナーへの規範意識を高めるために、「かみとよい子のやくそく」と「職員が共通理解しておきたい指導のめやす」を中心に、全職員が共通して児童に指導し、学期ごとに行動を振り返らせ規範意識を高めていく。 ・保護者の肯定的回答は9割以上を保っているが、地域住民は肯定的回答が下がったので、登下校の時のあいさつを中心の指導を行っていく。また、地域学校園内の中学校との連携によるあいさつ運動を継続していく。

A4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 市共通アンケートの「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 96%以上 市共通アンケートの「教職員は、児童生徒一人一人が理解できるように教材を工夫するなど、きめ細かな指導をしている」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	・学び合いの中で自分の考えをもって進んで表現できる児童の育成を目指して授業改善に取り組むとともに、一人一人に応じたきめ細かな指導に努めます。 (1)漢字、計算、音読などを発達の段階に応じて取り入れ、基礎・基本の定着を図った上で、分かる授業のための教材研究・授業研究に努め、自分の思いや考えを豊かに表現させながら、学び合いを重視した授業を展開します。さらに、思考力・活用力を育成する朝の学習を情実させます。また、取り組み様子を学校便りや、学年便り等で、地域・保護者に発信します。 (2)国語・算数における習熟度別学習・チームティーチングの実施や、かがやきルームにおける個別指導の充実などにより、児童一人一人に応じた効果的できめ細かな指導に努めます。	【達成状況】 児童の肯定的回答 96.3% 教職員の肯定的回答 100.0% 保護者の肯定的回答 92.7% B ・家庭学習の充実や、朝のパワーアップタイム等を通して、児童の基礎・基本の定着を図った。 ・ホワイトボードや ICT 機器を使って自分の考えを表現させたり、ペア学習により自分の考えに自信をもたせたりする指導について研究を進め、授業に取り入れた結果、積極的に自分の考えを述べるができる児童が増えてきた。 ・かがやきルーム指導員との調整を綿密に行い、個別指導の充実を図ってきた。 ・各種調査の結果、基礎的事項は定着しているものの、非連続テキスト等も併せて情報を読み取ったり、要点を押さえて文章にまとめたり、学習した知識を活用して課題を解決したりすることに課題があることが明らかになった。学力向上プランにのっとり、各学年の実態に応じた指導を充実していく必要があると考えられる。 B 【次年度の方針】 ・基礎基本の定着を引き続き図っていく。 ・T・Tの様子を授業参観等で公開したり、「できた」、「わかった」といった児童のふりかえりの言葉や活動中の写真を学年便りに載せたりすることで、より一層の周知活動を行っていく。 ・朝の学習の時間に実施している、思考力・活用力を育成するためのパワーアップタイムをより一層充実していく。
A5 教職員はいじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 市共通アンケートの「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童の肯定的回答 95%以上 市共通アンケートの「学校は、いじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組んでいる」 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	・「上戸祭小いじめ防止基本方針」について、全教職員で共通理解を図り、いじめの根絶に努めます。 (1)「いじめはどの児童にも起こりうる」との認識の下、未然防止の充実を図り、いじめの起こらない環境づくりに努めるとともに、いじめ防止の取組(いじめアンケート年4回、教育相談年2回等)について各種たよりやホームページ等で、保護者に発信します。 (2)いじめを早期に発見できるよう、児童が相談しやすい環境を整備します。また、いじめが起きたときには、事実確認を正確かつ迅速、組織的に行い、被害児童を守り通し、加害児童に対しては「いじめは決して許されないこと」を毅然とした態度で指導します。	【達成状況】 児童の肯定的回答 98.7% 保護者の肯定的回答 89.5% A ・いじめアンケートを年4回実施したり、教育相談を年2回実施したりして、いじめの未然防止と早期対応を行った。 ・児童の肯定的回答は98.7%と非常に高く、昨年度に比べ保護者の肯定的回答が大幅に上がった。学校としてのいじめ防止の取り組みをHPや学校だよりなどで発信した。 B 【次年度の方針】 ・いじめアンケートの年4回実施、教育相談の年2回実施、携帯所持調査の継続、職員会議後の情報交換の実施などにより、いじめの未然防止と早期対応を行い、いじめゼロ集会を保護者に参観してもらうなど保護者や地域に発信していく。 ・いじめゼロ集会の実施やいじめゼロ標語の作成・ポスターなどの掲示、いじめゼロリボンの着用、いじめゼロのロゴを配付物に記入することなどにより、いじめゼロ運動を発展・推進していく。

A6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている。 【数値指標】 市共通アンケートの「私の学校生活や様々な活動は充実している」 ⇒児童の肯定的回答 92%以上 市共通アンケートの「学校の日課、授業、行事などは、適切に実施されている」 ⇒教職員の肯定的回答 97%以上	・特色ある学校づくりや児童の実態に応じた教育課程を計画的に実施するとともに、PDCAサイクルを活用しながらよりよい教育課程となるよう努めます。 (1)授業を計画に沿って適切に実施し、「ザ チャレンジ」「修学旅行」「冒険活動教室」などの学校行事を子どもの主体性を大切にして実施します。 (2)学校行事や教育活動についての反省や、「社会に開かれた教育課程」の観点から本校教育課程について調査研究を進めるとともに可能な範囲で地域保護者の意見を取り入れ、今後の方針を検討するなどして、教育活動の工夫・改善を図ります。	【達成状況】 児童の肯定的回答 92.2% 教職員の肯定的回答 100% ・計画に沿い授業を適切に実施してきた。学校行事も、児童の主体性を大切にして実施している。 ・学校行事を行うにあたっては、昨年度の反省を生かし、見直し・改善を行い、充実を図った。 ・平成30年度より順次実施される新学習指導要領に対応するために、教育課程改善プロジェクトチームを組み、今後の方針について検討を重ねてきた。行事の精選を行うとともに、日課の見直しや年計の自校化などを行った。 【次年度の方針】 ・今年度の反省をもとに、さらなる行事の精選や充実を図る。 ・「社会に開かれた教育課程」の観点から本校教育課程について調査研究及び実践を進めていく。 ・「地域とともにある学校」を実現できるようカリキュラム・マネジメント行う。 具体的には、 ①地域・保護者の方々の教育力を生かした授業を展開する。 ②全市一斉土曜授業の日を「地域とともに学ぶ日」として位置づけ、地域・保護者の方々と交流したり学習成果を発表したりする学習活動を展開する。 ③お世話になった地域・保護者の皆様への感謝の気持ちを表す日として「上戸ありがとうの日」を実施する。
A7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。 【数値指標】 市共通アンケートの「学校は、学校便りや学校公開などで積極的に情報を発信・提供している」 ⇒保護者・地域住民の肯定的回答 97%以上	・保護者、地域住民等の学校に対する理解をより一層深めるため、積極的な情報公開に努めます。 (1)学校自由参観や児童会の活動、各学年で行う出前授業、文化的行事など、様々な機会を捉えて保護者の参加を促し、学校を保護者や地域に公開します。音楽集会は「発表集会」とし、音楽だけではなく、学習したことを学年の実態に合わせて発表する場とします。 (2)学校だよりの地区回覧、学年だよりの各種たよりの配付、ホームページの適宜更新を行い、学校の取組や児童の姿を、分かりやすく紹介します。	【達成状況】 保護者の肯定的回答 99.3% 地域住民の肯定的回答 96.7% ・授業参観や自由参観、発表集会や学校行事など、保護者や地域住民への公開の場を適切に設定してきた。 ・パブリシティの活用、学校だよりの発行など定期的な情報発信がなされていた。 ・ホームページの更新も適宜行ってきた。 【次年度の方針】 ・発表集会は、学習したことを学年の実態に合わせて発表する場とし、いろいろな姿を見ていただく場としたい。 ・今後も学校公開の場を適切に設定し、各種便り等により情報発信をしていく。 ・ホームページの更新も定期的に行っていく。

A8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。 【数値指標】 市共通アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 95%以上	・保護者や地域の各種団体、企業等の協力を得て、児童が人と関わりながら体験的に学ぶ機会を充実させるなどして、教育活動を充実させます。 (1) ボランティアの方々との活動内容のあり方を再吟味した上で、地域コーディネーターと連携し、ボランティアごとに担当の教員を配置し丁寧な打ち合わせを行い、地域の人材の積極的な活動を実現します。 (2) 児童の安全を守るために、PTAや地域ボランティアと協力して、朝の登校指導や集団下校指導、「子ども110番の家」や通学路における危険箇所の確認、引き渡し訓練を実施します。	【達成状況】 <table><tr><td>全体の肯定的回答</td><td>93.8%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答</td><td>96.9%</td></tr><tr><td>地域住民の肯定的回答</td><td>86.2%</td></tr></table> B ・地域コーディネーターと連携し、地域ボランティアの方の温かい協力のもと、充実した教育活動・教育環境が実現している。 ・肯定的回答割合は目標値に達しなかった。学校が協力をお願いしたいことを明確にできなかったことが反省点として挙げられる。 B ・PTAや地域ボランティアの協力により、児童は安全に登下校することができた。 ・本年度、見守り隊の方々にご参加いただき、安全・安心連絡会議を開いた。本校における安全・安心に関する取り組み状況を説明した。 【次年度の方針】 ・学校が協力をお願いしたいことを明確にした上で、打合せを行えるよう体制を整える。 ・学校は、各ボランティアと学校をつなぐ教員を決めて、窓口となる教員を中心に地域の人材に積極的に協力していただく教育活動を推進する。 ・全市一斉土曜授業日を「地域とともに学ぶ日」として実施できるようにする。地域コーディネーターとの連携をさらに充実させ、授業において地域の方々の協力を得られるようにしていく。 ・引き続き地域や見守り隊の方々の協力をいただき、安全・安心連絡会議等において、危険箇所や児童の様子などの綿密な情報交換を行い、連携を図る。	全体の肯定的回答	93.8%	教職員の肯定的回答	100.0%	保護者の肯定的回答	96.9%	地域住民の肯定的回答	86.2%
全体の肯定的回答	93.8%									
教職員の肯定的回答	100.0%									
保護者の肯定的回答	96.9%									
地域住民の肯定的回答	86.2%									

A9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】 市共通アンケートの「学校は、清掃が行き届き、荷物や備品などが整理整頓され、学習しやすい環境である」 ⇒全体の肯定的回答 92%以上 ※全体の肯定的回答とは、児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答の平均を指す。	・教職員が率先して日々の清掃を行い、清掃用具の使い方や清掃の仕方についての指導に加えて、全校クリーン活動や清掃強化週間の実施、美化委員会による清掃目標や美化集会により、自分たちの学校を自分たちできれいにしようとする意識を高めます。	B 【達成状況】 <table><tr><td>全体の肯定的回答</td><td>94.3%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答</td><td>93.5%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答</td><td>98.4%</td></tr><tr><td>地域住民の肯定的回答</td><td>86.2%</td></tr><tr><td>児童の肯定的回答</td><td>91.3%</td></tr></table> ・日々の清掃指導や美化委員会による集会活動や6年生による朝の中央階段清掃により、自分たちできれいにしようという意識が高まっている。 【次年度の方針】 ・教職員が率先して日々の清掃を行うことで、児童への手本となったり、美化委員会による清掃目標・清掃用具チェックなどで児童の校内美化への意識を高めたりする。	全体の肯定的回答	94.3%	教職員の肯定的回答	93.5%	保護者の肯定的回答	98.4%	地域住民の肯定的回答	86.2%	児童の肯定的回答	91.3%
全体の肯定的回答	94.3%											
教職員の肯定的回答	93.5%											
保護者の肯定的回答	98.4%											
地域住民の肯定的回答	86.2%											
児童の肯定的回答	91.3%											
A10 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取り組みを行っている。 【数値指標】 市共通アンケート『学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取り組みを行っている。』 ⇒全体の肯定的回答 90%以上	・地域学校園内の小学校及び中学校と連携を図り、学校園の教育ビジョンを立て、学習・生活面等で系統性や統一性を持った教育を展開します。 (1) 地域学校園の実態から「身に付けたい力」を教科別に話し合い、9年間で3期に分けそれぞれの発達段階に応じた目標を立て系統的な授業展開により、望ましい児童の育成を図ります。 (2) 「あいさつ運動」「乗り入れ授業」「中学校訪問」などを通して望ましい生活習慣を育成したり、互いの理解を深めたりします。	B 【達成状況】 <table><tr><td>全体の肯定的回答</td><td>92.4%</td></tr></table> ・地域学校園の実態から、教科ごとに9年間を見通し、発達段階に応じて設定した目標については、4校が集まって研修し見直しを図った。 ・「あいさつ運動」「乗り入れ授業」「中学校訪問」など、児童生徒・教職員ともに、交流を通して、互いの理解を深めることができた。 【次年度の方針】 B ・地域学校園ビジョンの見直しにより、小学校と中学校・学校と地域・学校と家庭とといったつながりの中で、子どもたちの学び続ける力を育成していくこととなる。具現化するための方策について、地域学校園内で検討し取り組んでいけるようにする。	全体の肯定的回答	92.4%								
全体の肯定的回答	92.4%											

	B5 学校は地域との連携を図りながら、様々な体験活動や児童の居場所づくりを進めている。 【数値指標】 学校独自アンケートの「学校は地域協議会等との連携を図りながら、様々な体験活動や児童の居場所づくりを進めている」 ⇒教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 95%以上	・地域協議会や地域コーディネーターと連携を図り、地域の人材やボランティアの協力を得て、豊かな体験活動や居場所づくりを展開します。 (1)地域・家庭・学校が連携して、「上戸ありがとうの日」を実施しご協力いただいた方々への感謝の気持ちを表す場を設け、地域を愛する気持ちを育てます。 また、総合的な時間を中心に地域と連携した教育活動を積極的に取り入れます。 (2)宮っ子ステーション「かみタマ」「上戸クラブ」との連携を図り、児童の放課後の多様な体験活動、居場所づくりに努めます。	B 【達成状況】 <table><tr><td>全体の肯定的回答</td><td>96.9%</td></tr></table> { 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答 97.5% 地域住民の肯定的回答 91.3% ・地域コーディネーターやふれあい地域協議会の全面的な協力をいただき、よりよい学習環境・豊かな体験活動の充実が図られた。 ・多くの児童が「かみタマ」に参加し、放課後の幅広い体験・学習活動が充実している。 B ・「上戸クラブ」は、学年の枠を超えた学習や遊びの場として、放課後の児童の居場所となっている。 【次年度の方針】 ・「地域とともに学ぶ日」「上戸ありがとうの日」等、地域と連携して行う教育活動のより充実した実施の方法について検討し工夫をしていく。 ・総合的な時間を中心に地域と連携した教育活動を積極的に取り入れていく。 ・「上戸クラブ」指導員の方々との連携を大切にし、情報共有をすることで、児童理解や児童のよりよい居場所づくりに努める。	全体の肯定的回答	96.9%
全体の肯定的回答	96.9%				
教育活動の状況	OA11 児童は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 市共通アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒全体の肯定的回答 90%以上 ※全体の肯定的回答とは、児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答の平均を指す。	O1 マナーアップ委員会を中心にあいさつ運動やあいさつ金メダル運動や教師の朝の挨拶週間を実施したり、地域の方やPTA、地域学校園と連携した取組を実施したりして、学校内・外でのあいさつの習慣化を図ります。特に地域の方への元気なあいさつの励行に取り組んでいきます。 2 地域協議会を通して、地域の方たちにも学校の取組をご理解いただき、教職員も含めて気持ちのよいあいさつができる関係づくりに努めます。	B 【達成状況】 <table><tr><td>全体の肯定的回答</td><td>91.1%</td></tr></table> { 教職員の肯定的回答 93.5% 保護者の肯定的回答 88.2% 地域住民の肯定的回答 80.0% 児童の肯定的回答 94.8% ・マナーアップ委員会による朝会や朝の会でのあいさつ運動やあいさつ金メダル運動や指導をおこなった成果が教職員・児童の肯定的回答に表れた。今後も地域の方へのあいさつが習慣化できるよう指導を継続していく。 ・教職員自ら明るいあいさつの率先垂範に努め、教師の朝の挨拶週間を実施し、児童が自然なあいさつができるよう啓発することができた。 【次年度の方針】 ・マナーアップ委員会のあいさつ運動を継続し、友達だけでなく地域の方への明るい自然なあいさつの励行に取り組んでいく。 ・地域学校園内の小・中学校・地域協議会と連携し、あいさつ運動を、さらに活発に展開していく。	全体の肯定的回答	91.1%
全体の肯定的回答	91.1%				

○A12 児童は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 市共通アンケート「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている」 「児童は、大人に対して適切な言葉づかいをしている」 ⇒全体の肯定的回答 85%以上 ※全体の肯定的回答とは、児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的回答の平均を指す。	○1 時・場・相手に応じた適切な言葉遣いについて、道徳や学級活動等の時間を中心に粘り強く指導に努めるとともに、家庭や地域での指導の協力について働きかけていきます。 2 日常的に、相手を思いやる「ふわふわ言葉」を使ったり、相手を気遣いながら名前を呼んだり会話をしたりできるように指導を行います。	B 【達成状況】 <table><tr><td>全体の肯定的回答</td><td>86.0%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答</td><td>96.8%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答</td><td>84.8%</td></tr><tr><td>地域住民の肯定的回答</td><td>72.4%</td></tr><tr><td>児童の肯定的回答</td><td>87.7%</td></tr></table> ・時と場と相手に応じた言葉遣いの意識は高くなっており、保護者や地域住民の肯定的回答は高い水準を保っている。今後も道徳や学級活動等の時間を使い、適切な言葉遣いの大切さについて指導し、家庭や地域にも啓発・協力を呼びかけていく。 ・「かみと」のキーワード（考えよう相手の気持ち、みんな仲良く、友達を大切に）のポスターを作成し、各学級で掲示し、意識の向上を図った。 【次年度の方針】 ・道徳や学級活動の時間、マナーアップ委員会の集会活動で、相手を思いやる「ふわふわ言葉」や丁寧な言葉遣いの指導・啓発を行うことで、相手の気持ちを考えながら会話をしたり、思いやりのある心の育成を図ったりしていく。	全体の肯定的回答	86.0%	教職員の肯定的回答	96.8%	保護者の肯定的回答	84.8%	地域住民の肯定的回答	72.4%	児童の肯定的回答	87.7%
全体の肯定的回答	86.0%											
教職員の肯定的回答	96.8%											
保護者の肯定的回答	84.8%											
地域住民の肯定的回答	72.4%											
児童の肯定的回答	87.7%											
B6 児童は、友達と仲良く生活し、楽しい学校生活を送っている。 【数値指標】 学習と生活のアンケート 「友達といっしょに過ごすのは楽しいです。」 ⇒児童の肯定的回答率 90%以上 B6 学校独自のアンケート 「交流活動や交流給食で、同じ学年や他の学年の友達が増えた。」 ⇒児童の肯定的回答率 80%以上	1 清掃活動や交流給食・交流活動等の縦割り班の活動を充実させ、異学年の交流を図ります。なかよし班活動及び、清掃班編成の回数を学期ごとの2回とし、同じメンバーで活動できるようにします。 2 児童についての情報交換や教育相談、いじめアンケート（年間4回実施）、Q-U検査の結果の分析活用携帯電話の所持調査などにより、児童一人一人に目を向けた指導に努めます。 3 一人一人の児童が居がいをもって学校生活を送ることができるよう、教員が積極的に児童のよさを見つけ、ほめたり言葉かけを行ったりすることに努めるとともに、悩みをもつ児童が教師に気軽に話ができる体制づくりを行います。	B 【達成状況】 学校独自アンケート <table><tr><td>肯定的回答</td><td>88.8%</td></tr></table> ・同学年や異学年との交流給食や上戸オリンピックや各委員会のイベントなどで交流を図ることを通して、児童の自主性を育てることができた。 ・なかよし班及び清掃班を同じメンバーにして活動したことで、児童同士のより良い関係づくりの契機となった。 ・職員会議後に児童に関する情報交換を行ったり、いじめアンケートや携帯電話の所持調査、Q-U検査の結果などから児童の生活や悩み・学級集団の特徴や傾向を把握したりすることをとおして、児童理解が深められた。 【次年度の方針】 ・ランチルームを活用した交流給食などの縦割り班活動について、その目的を明確にし周知した上で、同学年や異学年の交流を今後も継続していきたい。 ・児童についての情報交換や教育相談、いじめアンケート（年間4回実施）、携帯電話の所持調査、Q-U検査の結果の分析活用などにより、児童一人一人に目を向けた指導を継続して行っていく。 ・児童一人一人が居がい感をもって学校生活を送ることができるよう、教員が積極的に児童のよさを見つけ、ほめたり言葉かけを行ったりすることに努めるとともに、悩みを持つ児童が教師に気軽に話ができる体制づくりに心掛けていく。	肯定的回答	88.8%								
肯定的回答	88.8%											

健康・体力	A13 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 市共通アンケート「児童は、休み時間や放課後などに進んで運動している」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	1 「元気っ子健康体力チェック」の結果を踏まえ、体育の授業において、柔軟性、ソフトボール投げの能力を高めるための補強運動や、校庭や体育館の固定遊具施設を有効に活用するための補強運動を行います。 2 水泳検定カード・持久走がんばりカード、縄跳びカードを活用し、児童がめあてをもって運動に取り組めるようにします。 3 竹馬、一輪車、縄跳びジャンピングボード等を有効に活用し、児童が楽しんで運動に取り組めるようにします。 4 「元気っ子健康体力チェック」の結果とスポーツ委員会主催のイベントとを関連させながら、友達と豊かに関わりながら進んで運動に取り組めるような機会を、休み時間に設定し、屋外遊びを奨励します。	B B B A	【達成状況】 児童の肯定的回答 87.4% ・児童は上戸タイムや昼休みに校庭で元気に遊び、運動する習慣が身に付いてきた。 ・元気っ子健康体力テストにおいて、苦手としている投力を向上させるため本校で作成したバトンスロー器具を体育時等で活用した。また、スポーツ委員会主体のドッジボールフェスティバルを開催したり、各教室に小さいボールを6～7個配置し、ボール投げ遊びを奨励したりした。 ・各種検定カードにより、児童がめあてを持って意欲的に運動に取り組んだ。 【次年度の方針】 ・本年度の取り組みを継続するとともに、投力や柔軟性の向上をめざして子どもたちが進んで運動に取り組めるように、スポーツ委員会主体のイベントをさらに充実させる。また、楽しみながら運動できる環境を整え、総合的な体力の向上を図る。
	A14 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 市共通アンケート「児童は、好き嫌いなく給食を食べている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上 市共通アンケート「自分の子どもは、好き嫌いなく食事をしている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	○1 食育だよりを毎月発行したり、旬の食材を活用した季節感のある給食を実施したりして、食の大切さについて啓発を行います。 2 食物アレルギーのある児童の保護者との面談及び対応策の検討をして、個に応じた望ましい食習慣を育成します。 3 教科における「食に関する指導」や給食時の栄養指導等を実施するとともに、各種たよりで取組の様子を伝えていきます。	B B B	【達成状況】 児童の肯定的回答 82.9% 保護者の肯定的回答 70.5% ・教職員の肯定的回答は83.3%であり、保護者と認識に違いがある。 ・本年度給食の残量が増加した。 ・担任や栄養士は、嫌いなものでも一口は食べるよう、継続的に指導している。 【次年度の方針】 ・児童の食習慣と密接に関わる生活習慣について、家庭でも協力をいただけるよう情報を発信する。 ・担任・栄養士は、継続的に給食指導を行っていく。

学 習	B1 安全と健康管理に気をつけ、元気に生活している。 【数値指標】 学校独自アンケート「児童は、安全と健康に気をつけて生活している」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 95%以上	1 健康診断後に治療依頼の連絡をしたり、保健だよりを発行したりして、健康な生活習慣育成のための情報を提供します。また、給食後の歯磨きを全学年実施します。 2 肥満傾向児童に対して、養護教諭と学校栄養職員が栄養健康相談を継続して実施し、家庭と連携して健康な生活習慣の育成を図っていきます。 3 自分の命を自分で守ろうとする意識を高めるため、学年に応じた安全指導を行い、避難訓練や、不審者対策、交通安全指導を定期的に行い自分の命は自分で守ろうとする意識が高められるよう、指導を工夫します。	B B B	【達成状況】 <table><tr><td>全体の肯定的回答</td><td>94.6%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答</td><td>93.3%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答</td><td>94.8%</td></tr><tr><td>児童の肯定的回答</td><td>95.0%</td></tr></table> ・肯定的回答はどれも高水準に達している。健康診断の結果、耳鼻科、視力、歯科検診の結果による受診率は約80%と高い。 ・健康アップウィークを年3回設けて児童の自己健康管理習慣づけを行った。 ・自分の命は自分で守る児童を育てるために、道徳の時間はもちろん道徳教育において「生命の尊重」などを教え、さらに避難訓練の実施方法の工夫をはじめとし、校内に避難経路や避難方法の掲示をして、啓発を図った。 【次年度の方針】 ・健康栄養相談において、対象児童は、生活習慣改善の知識が身についたので、実践できるように支援していきたい。 ・今後も自然災害の避難訓練において、自分の命は自分で守ろうとする意識が高められるよう、道徳教育等での指導を工夫する。	全体の肯定的回答	94.6%	教職員の肯定的回答	93.3%	保護者の肯定的回答	94.8%	児童の肯定的回答	95.0%
	全体の肯定的回答	94.6%										
教職員の肯定的回答	93.3%											
保護者の肯定的回答	94.8%											
児童の肯定的回答	95.0%											
A15 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 市共通アンケートの「児童は、授業中に進んで話し合うなど、積極的に学習している」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 92%以上	1 自分の考えや思いをまとめて書いたり、発表したりして豊かに表現できる児童を育成します。 2 発達の段階に応じて、「発表の仕方」や「話の聞き方」のポイントを示し、互いの意見を伝え合い、児童同士で考えを深めていけるような場の設定を行い、話し合いの活性化を図り、学び合う活動で意欲を高める課題提示の工夫を考え、効果的に取り入れて授業を行います。	B B	【達成状況】 <table><tr><td>全体の肯定的回答</td><td>92.4%</td></tr><tr><td>教職員の肯定的回答</td><td>100.0%</td></tr><tr><td>保護者の肯定的回答</td><td>92.6%</td></tr><tr><td>児童の肯定的回答</td><td>91.6%</td></tr></table> ・ペアや小集団など、多様な学習形態での話し合い活動を通して、自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いて比較あるいは再考したりする力が育ってきている。 ・互いの良さを認め合い、安心して学習に取り組める学級集団が育成され、自信をもって意見を述べたり、話し合ったりできる環境が整ってきた。 ・生活に根差した課題を提示することで、学習を自分事としてとらえ、主体的に学ぼうとする児童が増えた。 【次年度の方針】 ・授業の中で、児童同士が学び合いによって学習を深めていけるような活動を意図的に取り入れ、話し合いの活性化を図っていく。 ・生活と学習を結ぶ課題の工夫をより一層充実していく。	全体の肯定的回答	92.4%	教職員の肯定的回答	100.0%	保護者の肯定的回答	92.6%	児童の肯定的回答	91.6%	
全体の肯定的回答	92.4%											
教職員の肯定的回答	100.0%											
保護者の肯定的回答	92.6%											
児童の肯定的回答	91.6%											

A16 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 市共通アンケートの「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 市共通アンケートの「児童は、授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」 ⇒教職員の肯定的回答 98%以上	1 話をきちんと聞く態度を身に付けさせるため、授業や行事などの集会活動において、日常的に聞き方の指導を行います。 2 児童が安心して自分の考えをもち発表し、友だちの考えや気持ちを尊重できるよう、活動の目的に応じて学習形態を工夫しながら、授業の中で話し合い活動を積極的に設定します。落ち着いて学習に取り組んでいる児童やめあてに向かって努力し続ける児童や話を聞いたり、自分の考えを分かりやすく発表したりする態度が、十分できている児童をほめ、学びに向かう集団として望ましい状態を作ります。	B B	【達成状況】 児童の肯定的回答 91.9% 教職員の肯定的回答 100.0% ・ほとんどの児童が、「話の聞き方」や「発表の仕方」等の学習上の決まりをしっかり守り、落ち着いて学習に取り組んでいる。 ・朝会や集会で集まった時、正しい姿勢で集中して話を聞くことができる。 【次年度の方針】 ・学業指導を継続して行う。 ・落ち着いて学習に取り組んでいる児童やめあてに向かって努力し続ける児童をほめ、学びに向かう集団として望ましい状態を提示する。 ・十分できている時はほめたたえる。
B2 学校は、家庭と協力して、家庭学習の習慣化を図っている。 【数値指標】 学校独自アンケートの「児童は、毎日、家庭学習をしている」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 90%以上	1 「家庭学習の手引き」に基づき、家庭学習の捉え方について保護者及び児童に周知徹底を図り、各自が計画を立てて家庭学習に取り組めるように支援するとともに、保護者の理解・協力を得て、家庭学習の習慣化を図ります。さらに取り組みの様子を学校便りや、学年便り等で、地域・保護者に発信します。また、家庭学習の重要性や内容、方法について、保護者会・個人懇談等を利用して保護者に啓発していきます。連絡帳の表記を○あるいは㊦から㊧に変更し、宿題も家庭学習であることの周知を図り、毎日取り組んでいる事実を積み重ね児童の自信につなげます。 2 児童の提出した家庭学習の課題やノートによく目を通し、一人一人の学習状況や内容に応じて個別指導を行い、認め励ますことで意欲づけを図ります。	B B	【達成状況】 全体の肯定的回答 88.8% 児童の肯定的回答 90.9% 教職員の肯定的回答 100.0% 保護者の肯定的回答 86.3% ・日々の授業の振り返りに基づいて児童自身が学習内容を決め、実行して毎日内容等を記録する「かみとの家庭学習」を全学年で実施した。多くの児童が進んで取り組み、習慣化されてきている。 ・児童のノートや提出物、家庭学習の記録を毎日確認し、内容に応じて個別指導を行うことができた。 ・連絡帳の表記を○あるいは㊦から㊧に変更し、宿題も家庭学習であることの周知を図ったことで、意識が変化し、児童や保護者が「毎日取り組んでいる」という実感を持つことができるようになった。 【次年度の方針】 ・宇都宮市の家庭学習のスタンダードである学年×10分を目安に、毎日継続して取り組めるよう、宿題と自主学習のバランスや内容等を個別に指導し、家庭学習の習慣化を図っていく。 ・家庭学習の重要性や内容、方法について、保護者会・個人懇談等を利用して保護者に啓発し、理解を求めていく。

本校の特色・課題等	B4 学校は、学校栄養職員と調理員が連携して、安全でおいしい給食を供給し、食育の充実に取り組んでいる。 【数値指標】 学校独自アンケートの「学校の給食は、安全でおいしい」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 95%以上	1 旬の食材を活用し、子どもの食の好みを考慮しつつ季節感のある安全・安心・おいしい給食を提供します。 2 食物アレルギーの対応については、保護者との面談を十分に行い、学校栄養職員、担任、養護教諭、調理員の連絡を密にし、事故のないよう努めます。	B B	【達成状況】 全体の肯定的回答 95.8% 教職員の肯定的回答 100.0% 児童の肯定的回答 96.3% ・月に1回食材の放射線検査を実施している。 ・旬の食材を活用し、行事食や司書とのコラボ献立などを実施し季節感のある献立を提供している。 ・学校医の講話により、食物アレルギーについて理解が深まった。 【次年度の方針】 ・子どもの食の好みを考慮しつつ、栄養や食文化や安全を考えた給食を提供していく。
	B3 読書活動の充実に取り組んでいる。 【数値指標】 学校独自アンケート「児童は、本をよく読んでいる」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 83%以上	1 朝の図書の貸し出し、ファミリーレーブックの実施、読み聞かせボランティアの活用、読書週間での様々な企画等を通して、読書活動を推進します。 2 「ファミリーレーブック」の実践等を通して、家庭読書の充実を図ります。 3 家庭の理解と協力を呼びかけながら、効果的な取組を継続し、さらに読書の有用性や楽しさを味わえるよう配慮して、読書指導の充実を図っていきます。	B C A	【達成状況】 全体の肯定的回答 73.1% 児童の肯定的回答 84.8% 教職員の肯定的回答 100.0% 保護者の肯定的回答 59.6% ・児童はちょっとした時間にも読書を楽しみ、静かに集中して読んでいる。 ・読み聞かせボランティアの活用、読書週間での様々な企画を通して、児童の読書活動を進めることができた。 ・自分の子どもは本を読んでいないと考えている保護者が非常に多く、肯定的回答率が昨年より5ポイント下がっている。学校では本を読んでいるものの、家庭では読んでいない状況だと考えられる。 【次年度の方針】 ・ファミリーレーブックの実施方法を見直し、家族で楽しく読書をすることができる方法を検討する。 ・家庭学習として読書を推奨する「全校一斉読書の日」を設ける。 ・学校での読書の様子を、学年だよりや図書館だよりを通じて伝え、保護者の理解を得るようにする。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

《学校運営面》

- ・学級経営の充実、「友達100人大作戦」のもとに行われた異学年交流活動等を通し、活気があり、明るくいいきとした雰囲気の中で児童が学べるような学校づくりに努めてきた。
- ・学校行事、授業参観、発表集会等により学校公開が適切に実施された。また、学校だよりをはじめ各種たよりの発行、ホームページなどの活用で、教育活動や児童の様子を広く公開し情報を発信することで、学校に対する理解・協力を得ることができた。
- ・PTA、ふれあい地域協議会、各種ボランティアの方々の温かい協力で、充実した教育活動を行うことができています。
- ・ボランティアにご協力いただく場合には、窓口教員を通して、学校の要望を明確に伝えていく必要がある。
- ・平成32年度からの新学習指導要領の完全実施に向け、更なる行事の精選や教育課程の工夫等、地域の方々のご協力を得ながら取り組んでいく必要がある。

《児童指導面》

- ・児童を育てる機会を増やし、触れ合う時間を確保することで信頼関係を築くとともに、Q-U検査の分析、いじめアンケート

や携帯所持調査の定期的な実施、教育相談・児童の情報交換等とおして、いじめや問題行動の早期発見・早期対応に努めてきた。一人一人の児童の理解と十分な実態把握に努め、さらに積極的・組織的な児童指導の充実を図っていく。

○地域学校園での今年度の目標である、「明るく元気なあいさつと丁寧な言葉遣い」、「いじめの未然防止」を合言葉に、本校では実践に努めてきた。学校では元気なあいさつや正しい言葉遣いができるようになりつつあるので、今後、保護者や地域へ広がっていくことが期待される。今後も日々の指導や道徳や学級活動での授業の実践を通して、保護者や地域の方へ取り組みを啓発しながら、継続的に意識の向上に取り組んでいきたい。

《体力・健康面》

○児童の視力低下は、星が丘地域学校園共通の健康課題なので、目の健康指導について引き続き、検討し実施していきたい。

○投力の向上のために、星が丘地域学校園と連携し、協議を重ねながら発達の段階に応じたよりよい方法を検討していく。

・友達と豊かに関わりながら進んで運動に取り組めるような環境づくりを図るために、スポーツ委員会が中心となって、各種のイベントを休み時間に開催し、外遊びを奨励していく。

○地域学校園共通献立や絵本とのコラボ給食を実施し、また、JAうつのみやから提供された特別栽培米やとちおとめなど地元産食材を使った給食を実施したことにより、安全・安心・おいしい、さらに潤いのある給食となったので今後も継続していく。

《学習面》

○「かみとの家庭学習」をさらに推進し、ベースとなる形式を整えて全学級で実施していく。また、家庭学習の基本は宿題であることを様々な機会に伝え、保護者や児童の意識転換を図る。

・コミュニケーション能力の育成のため、話し合い活動を意図的に取り入れる。また話し合い活動を促進するためのツールや学習形態を工夫し、検証して、結果を共有する。

○思考力や判断力を高め、知識を活用して解決する課題を用意する。

○児童の学びに向かう意欲を高めるため、課題の設定を工夫する。

○児童の読書活動について各種たよりで保護者に周知する。また、ファミリーブックの実施方法を見直し、家庭と連携した読書活動の在り方を検討していくと同時に、読書を家庭学習として推奨する「全校一斉読書の日」を実施し、読書への意欲付けを図っていく。

6 学校関係者評価

《学校運営面》

・学校運営がうまくいっていることが、授業参観に来る保護者の真剣に授業をみつめる態度と数の多さ、熱心に授業を公開している教師の姿でわかる。また、意欲的な指導をする教師集団が児童を主体とした教育をしている姿が見られる。

・学校の雰囲気が良いので、学校に協力する保護者や地域の方々も多く、意見も言いやすいので、現在の学校の課題も見えてきて、その課題解決のために次年度の学校方針が決まるシステムなのでよりよく子供たちを教育できる。

・保護者に向けて学校の様子を発信すると、子供とのコミュニケーションが深まり、学校に対する理解も深まる。

《生活指導面》

・見守りボランティアが、元気のない子に「どうしたの」と問いかけることにより、いじめも早期発見・予防ができるのではないかと。

《体力・健康面》

・昼休みなど、先生方が、子供と一緒に遊んでいる。この継続が子供たちの体力の向上につながる。

《学習面》

・ファミリーブックは、形骸化しているので、実効性のあるものをお願いしたい。

・学校の要望に応じて、積極的に教育活動に協力したい。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

・今年度も、家庭と地域との連携協力による取り組みの充実に努めてきた。その結果、学校評価全体において、好意的、建設的なご意見ご提言をいただくことができた。これらを真摯に受け止め、次年度以降の学校運営改善に活かしていくとともに、学校教育活動に対する理解が深まるよう、折に触れ、その狙いや意図について、家庭地域に情報を発信することに努め実践していく。

・社会に開かれた教育課程の実現を目指して、行事の削減、縮小、合体を推進し、各学年の授業に、地域・保護者の方々の教育力を生かした授業を展開する。その後、土曜授業で、交流発表を行い、年度末には貢献いただいた方々を表彰するというサイクルを実践していく。

・学級環境づくりとしても、様々な意見を言いやすい学級「支持的風土の学級」（意見の対立はあっても、感情の対立はなく異質の他者の存在を知り、理解し、共生していく学級）を昨年に引き続き作っていく。また、教師や児童が「いじめの芽」を敏感に感じ取れるよう努める。いじめ未然防止として道徳、学級活動などの授業で人権教育・道徳教育の取り扱い（授業指導や、早期発見として、アンケートや教育相談、チャンス相談）を継続していく。いじめ早期対応を行うなど、その取り組みを、「いじめゼロ」集会を公開することなどにより保護者や地域に発信していく。また、見守りボランティアの皆様や地域の皆様、保護者からもいじめに関する情報をいただけるよう啓発活動を行う。

・児童が、個人の能力に応じて進んで運動できるよう様々な機会の工夫・充実に努める。運動に親しむことのできる学校行事（縄跳び大会、かみとオリンピックなど）を設定し、さらに昼休みなど教師が、児童と過ごす時間を生み出し一緒に遊ぶなどし、生涯を通じて運動に親しもうとする態度を養う。

・児童一人一人の学習の状況を形成的に評価し、適切な指導・支援を行う。授業の終末には学んだことを振り返り活動の充実をさせる。書く、聞く、話す活動を充実させ、考える習慣をつけさせる。家庭学習の習慣化を、自主学習ノートの提出とそれに対する日々の担任のアドバイスや励ましのコメントを継続することにより図る。コメントに関しては担任が児童の学習に対する実態を把握するためにも大変だが継続していく。また、児童の読書時間を増やす方策を考え、実行する。